

第 27 号

こころ

県P連だより

編集 徳島市北田宮1丁目8-68
発行 〒770-0003 ☎088-633-1105
徳島県PTA連合会

ホームページ
<http://www.tokukenpta.com/>

徳島うずしお大会の御礼

徳島県PTA連合会会長 永瀨 浩幸

日頃は、徳島県PTA連合会活動にご理解とご協力を賜り誠に、ありがとうございます。

また、平成二十八年八月二十日、二十一日に開催されました、第六十四回日本PTA全国研究大会徳島うずしお大会、第四十五回日本PTA四国ブロック研究大会にご協力、ご参加頂いたことに、感謝申し上げますとともに、充実した大会が実施できましたことを心より御礼申し上げます。

本大会を開催するにあたり、大会趣旨を次のように捉えました。『子どもたちを取り巻く環境は日々変化し、多くの課題や問題が生じている現代社会において、家庭教育や学校教育の充実とともに、地域の教育力の活用も求められています。それに伴いPTAの果たす役割と期待はますます高まっています。徳島県には「まけまけいっばい」という方言があります。これは「あふれそうなくらい」という意味です。このような時代だからこそ、私たちの「まけまけいっばいの愛」を子どもたちの輝ける未来のために全力で注ぎ込もうではありませんか。

さあ、今こそPTAの底力を発揮する時です。ここ四国、徳島県とともに学び、交流し、心をひとつにして、子どもたちの輝く明日のために熱く語り合ひましょう。この大会趣旨をもとに掲げたスローガンは「徳島発！渦巻く力を これからの社会に巣立つ子どもたちのために」まけまけいっばいの愛を注ぎ

込もう！でした。徳島うずしお大会にご参加頂いたPTA会員の皆様、これからの社会に大きく飛躍する子どもたちの望ましい成長のために、現状の再認識と課題追及を行い、今私たちがすべきことを学び、研究討議を重ねた成果を今後のPTA活動に反映して頂けることを願っています。

さて、子どもたちの成長には目を見張るものがあります。日々、成長していく子ども達を見てるのは嬉しくもあり、楽しいものです。子どもたちは、いろいろなことを乗り越えながら今日も学校に通って楽しく頑張っています。そんな子どもたちと一緒に成長していき、私たち保護者は、PTAという場で楽しく成長させてもらえるチャンス子どもたちから貰っているのです。PTAはいろいろな違うものを持った人達の集まりです。年齢が違う、職業が違う、家庭環境が違う、感じ方も考え方も価値観も違います。そんな中で、たった一つだけ共通するものが在ります。それは、子ども達のために何かをしたいという思いです。その共通した同じ思いを持った仲間が繋がる。そしてそこから、子ども達の為に何かを生み出していき、育てていく、創り上げていく。本当にこの活動は尊いものだと思えます。お忙しいとは存じますが、時間の許す限り、PTA活動に積極的に参加して頂きますようお願い申し上げます。

平成二十八年年度県教育長要望

- ① いじめ・不登校・体罰に関する問題と課題
 - ② 防災・環境整備の促進
 - ③ 児童生徒の登下校や学校内における安全確保と不審者対策
 - ④ 高校入試通学区域の見直し
 - ⑤ 教育費の確保及び教員の適正配置や資質向上
 - ⑥ 安全な食材の提供と食育指導
 - ⑦ 土曜授業や放課後等の教育支援
- 以上の項目について要望をいたしました。

栄えある全国表彰

十一月十八日(金) 東京のホテルニューオータニに於いて日本PTA全国協議会表彰式が行われました。本県関係の受賞者は次の通りです。心よりお喜び申し上げます。

文部科学大臣表彰・団体

石井町立石井中学校PTA

つるぎ町立半田小学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰・団体

鳴門市第一小学校PTA

吉野川市立鴨島東中学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰・個人

県P連副会長

池内 誠

県P連副会長

泉 富士夫

県P連副会長

(北島南小P)

県P連前副会長

岡本 秀文

県P連前副会長

(見安小P)

県P連前副会長

森西 善彦

県P連前副会長

(鷺敷中P)

県P連前理事

新居 友和

県P連前理事

(新野中P)

県P連前理事

横野 豪

県P連前理事

(横瀬小P)

県P連事務局

広瀬 泰弘

県P連総会

去る六月三日(金) 県教育会館において、県P連役員・郡市代議員・受賞者の方々の出席のもと、平成二十八年定期総会が盛大に開催されました。

永瀨浩幸会長のあいさつに続き、熱心な活動をされた六団体と三十四名の方に表彰状と十一名の方に感謝状が、そしてPTA広報紙コンクールに入賞された七校に表彰状が贈られました。ご臨席の来賓四名の方を代表して県議会副議長喜多宏思様、県教育委員会生涯学習課長阿部淳子様からご祝辞をいただいた後、岡本秀文氏の受賞者代表謝辞へと進みました。

議事に入り、平成二十七年年度の事業報告・決算報告・監査報告を承認の後、平成二十八年年度新役員が選出され、次に平成二十八年

度努力目標、事業計画、予算案等についての協議が行われ、原案どおり承認の運びとなり、総会を終りました。



平成二十八年度 役員

会長 永瀨 浩幸

副会長 池内 誠 (役員会推薦)

〃 藤山 英和 (吉野川)

〃 竹内 康浩 (那賀)

〃 泉 富士夫 (板野)

〃 横田 茂則 (役員会推薦)

〃 山本 純 (小松島)

徳島県PTA連合会 事務局

〒770-0003
徳島市北田宮1丁目8-68
徳島県教育会館内2階
TEL(088)633-1105
FAX(088)633-1153

◆事務局の構成
事務局長 広瀬 泰弘

編集後記

広報委員長 松田 裕之
今年度のブロック別PTA活動紹介は、つるぎ町PTA連合会と那賀町PTA連合会のP連の活動内容を紹介させていただきました。

また、各分科会実行委員会からは八月に開催しました徳島うずしお大会の各分科会、全体会の概要を寄稿いただきました。全国大会に参加された保護者の方から、「参加してよかった。」「勉強になりました。」「の声を聞いて見て感じ、考える大会になったと実感しました。」

今回寄稿いただいた各郡市P連、分科会実行委員会の方々ははお世話になり、ありがとうございます。

遠藤 祐美 (阿南)
中山 昌之 (海部)
浪越 憲一 (美馬)
井口 宗忠 (つるぎ)
松浦 明人 (三好)
新田 茂男 (名西)
阿部 勉 (阿波)
竹田真由美 (勝浦)
川原 富子 (徳名中)
顧問 松田 裕之 (小松島)
研修委員長 松江 剛嗣 (阿南)
総務委員長 永瀨 浩幸 (役員会推薦)

第六十四回 日本PTA全国研究大会 徳島うずしお大会

平成28年
8月20日(土)
21日(日)

第一分科会

マイナスからのスタート ～想いをひとつに～

第一分科会副実行委員長
野口 弓子

ただひとつ、「たとえ開催都市が小松島市一カ所になったとしても、子供たちの笑顔につながる」と信じて、第一分科会としてこの大会に臨む。」という想いの中の活動再開。



私が副委員長として関わりを持つことになったのは、本格的に活動する形になる前のことでした。これから進めていかなければならない状況から、「だれもやらない、だからやるんだ。」という意識が生まれたのもこの頃からです。「うずしお大会の開催の危機」として取り上げられて、不安を抱え活動していかねばならぬ状況の中でスタートは、かなり厳しい現状がありました。正直になることが困難で、考え議論していく中で、正論さえ相手に伝わらないなど、県Pの進め方に納得がいらず、もどかしさを感じ

ました。そんな中、自分に言い聞かすように意識した言葉があります。「苦しくとも、負けないう。投げ出さない。逃げ出さない。自分を持ち流されない。信じよう。大丈夫、心配いらない。」何度となく助けられ、私が、子供に発信している言葉の意味を実感しました。この言葉や、崎水流実行委員長からのエールを受け止め、活動してきました。その想いをもつての札幌でのPRとなりました。会場で皆さんとお会いできたことは、大切な思い出になりました。来場してくださった皆さん、私と関わりを持つてくださった札幌スタッフの皆さん、そして、徳島のPR隊として協力してくださった四国各県有志の皆さん、本当にお世話になりました。あの日、あの瞬間に立ち会ってくださり、感謝しております。私には、「忘れられない贈り物」になりました。

新年度に変わり、実行委員のメンバーも入れ替わりの中、で、仙台につなげるために、少しでも前に進めようとして、気持ちばかり先行してしまう時期もありました。小松島が新生第一分科会の領域「組織運営」、「広報活動」にくくられてからは、それぞれの関わる意識、活動が活発化していったのも、人の巡り合わせのように感じてい



ます。私にとって、関わった皆さんは、人生の先輩、良きライバル、良き理解者、良き保護者、先生方の協力など巡り合わせがよかったのだと感謝しています。素晴らしい出会いがありました。苦しく厳しい中、学んだこともありました。私たちは、知恵を得て成長せねばなりません。ここではじめて「0」になるのです。新しいスタートをするために、次世代に繋げるために、努力していかなければならないと思います。子供たちの未来、関わる環境を整えるため、PTAの在り方を原点に立ち戻り考え、本来の意味することとを理解した上で、あるべき組織の形にしていく必要があるのではと考えます。

第二分科会

分科会を終えて

実行委員長
稲井めぐみ

「子供を中心に」を根底に、現実と真剣に向き合う。考え行動し、結果を残していく。また、私たち大人が子供と一緒に活動して、考えて活動していける場所

にすること。私たちは、この全国大会を、自分たちのかけがえない存在である子供たちの明るい未来に繋がると信じて第一分科会に臨みました。混乱の収まらない中で開催にもかかわらず、足を運んでくださった全国のPTA関係者の方々に感謝の気持ちを伝えるため、全体会を含む、どの分科会をも遙かに凌ぐ二百二十五名のスタッフで

皆さんをお迎えしました。評価はどうであれ、私たちは完全燃焼しました。全く悔いはありません。徳島うずしお大会第一分科会は、マイナスからのスタートでしたが、昨年の札幌大会第一分科会でのPRを機に、実質的にスタートを切ることができました。小松島市PTAは、これまで以上に子供たちを中心に据えたPTA活動を進めていきます。



皆さんをお迎えしました。評価はどうであれ、私たちは完全燃焼しました。全く悔いはありません。徳島うずしお大会第一分科会は、マイナスからのスタートでしたが、昨年の札幌大会第一分科会でのPRを機に、実質的にスタートを切ることができました。小松島市PTAは、これまで以上に子供たちを中心に据えたPTA活動を進めていきます。

皆さんをお迎えしました。評価はどうであれ、私たちは完全燃焼しました。全く悔いはありません。徳島うずしお大会第一分科会は、マイナスからのスタートでしたが、昨年の札幌大会第一分科会でのPRを機に、実質的にスタートを切ることができました。小松島市PTAは、これまで以上に子供たちを中心に据えたPTA活動を進めていきます。

皆さんをお迎えしました。評価はどうであれ、私たちは完全燃焼しました。全く悔いはありません。徳島うずしお大会第一分科会は、マイナスからのスタートでしたが、昨年の札幌大会第一分科会でのPRを機に、実質的にスタートを切ることができました。小松島市PTAは、これまで以上に子供たちを中心に据えたPTA活動を進めていきます。

第二分科会の概要
第二分科会は、あわさんホール四階大会議室を会場に全国から六百名以上の方をお迎えし、場外の真夏日にも負けない熱気の中で行われました。テーマは「家庭教育・健康安全」です。藍住東小学校の「風流連」による阿波踊りで開幕し、開会行事に続いて、海陽町出身の料理研究家、浜内千波氏が「子供たちにとっての食育の大切さ」と題して基調講演を行いました。浜内氏からは時間を感じさせない明るく巧みな話しぶりで、子育てにおける食育の大切さを、豊富な実例をふまえながらお話しいただきました。スライドに映し出される様々な食事の風景やメニュー、ちょっとした工夫からできる様々な栄養面での効果など、参考になる点が多く紹介されました。また、栄養面からだけでなく、食育が円満な家庭の雰囲気作りを果たす大きな役割にも言及されました。聴衆からも「もっと長く聞きたかった」「話の内容もさることながら、浜内先生の人柄と話しぶりに引き込まれました」と好評のうちに終えました。



する意見交換が進められました。どのパネリストからも経験に基づいた発言が出されました。例えば「スパー食育スクール」の活動に参画された方からは、食材にこだわった食育に取り組むことで保護者の子育てについての考えに変化が見られたことなど、来場者の参考になる点も多く紹介されました。また、最近の子どもの食事を取り巻く大きな課題、例えば栄養の偏りや家族の温かみが希薄な食卓など、PTAとして取り組むべき多くの課題も取り上げられ、共に考えさせられる時間となりました。

四時間に渡る分科会でしたが、多くの方が食育について課題を持ち帰ることのできた、有意義な時間となりました。

第三分科会

うずしお大会 第三分科会を終えて

第三分科会実行委員長

松浦 明人

到達するまでの時間は長く、過ぎてみれば過去の時間は短いものです。

第六十四回日本PTA全国研究大会徳島うずしお大会が成功裏に終わった頃は、まだセミの鳴き声が賑やかな暑い季節でした。それが、今年年の瀬の声も聞こえて参りました。

県内開催の是非から始まったこの大会、第三分科会においても、徳島県の西端の地で、開催は無理だろうという声が非常に大きいという状態でした。そんな中、それでもやらなければならぬという事実を直視し、臆するわけにいかないと、当時の近藤実行委員長をはじめ役員

の責任感と熱意で分科会の開催を決めたのが二年前のことでした。初めは何の資料やデータもなく、大会の概要すらわからない中、手探りで組織づくりからスタートをしました。



それで

も、先輩方の頼りがいのある背中を見ながら少しずつ資料を集め、大まかな計画を描き始めた頃のこと、近藤会長から「第三分科会は、平成二十七年に体制を再構築する」との話がありました。すなわち、近藤会長が実行委員長を退任し、次の三好地区PTA連合会長の下で新たに体制づくりを行い、また事業計画から実施までを行うということです。

近藤会長以外に誰が実行委員長を引き受けるだろうかと思っていた矢先のこと、その会長から、次の実行委員長を引き受けてほしいとお電話がありました。固辞しようと思っていた会話の中で、「松浦くん以外にこれをまとめられる人はいないから、是非お願いします」との言葉を頂き、どこまでできるかわからないけど、とにかくやってみようと思ったのが昨年の春のことです。

まだまだ一年半も先の計画と

いうことで、まずはそれまでの先輩方の立ててこられた計画や思いを整理することから始めました。

組織の体制も組み直し、実行委員長の立場になって改めて見渡してみると、非常に頼もしいメンバーで実行委員会が構成されていることに気が付きました。できる……

これが本当に最初の感想です。一年半も先のことで、大会の具体的な姿が見えていなかったことや、細かいことまで目が届かなかったが故の楽観視だったかもしれない。でも、後になってみれば、この楽観的な考え方があったからこそ最後までやれたのかもしれない。

詳細計画を立て始めたのが昨年の夏からです。基調講演の講師選定、パネルディスカッションの計画などを行いました。すんなりと決まるとか思ったのですが、そうも行かず、分科会実行委員会と県P、日Pとの調整の中で、何度も計画の修正を余儀なくされました。そのたびに対応した事務局長をはじめ実行委員の皆さんには今も感謝するばかりです。

そうしているうちに、遠い先の話だと思っていた大会も開催日を迎えました。

何の緊張もなく当日を迎えられたのは、本当にそれまでに努力をして



きて下さった頼もしい実行委員の皆さんがいたからこそだと思っています。

開会式、基調講演、実践発表、パネルディスカッションとプログラムが進み、大勢の参加の皆さんも熱心に聞いてくださいました。

閉会時に「こんな小さな街でこんな大会ができるのかと思っ

ていました。過去の先輩方の歴史を参考にしながら計画を立て、大会の成功につなげることができました。過去の歴史に、現在を加えて新たな未来ができる。来年の仙台大会が、最高の大会となることで、私達の大会に、もう一つ意味ができる」と述べました。その言葉のとおり、過去の大会資料などを参考に、ひとりひとりの実行委員が知恵を出し合い、全員で取り組んだ、そのことこそ我々実行委員会にとって今大会の最大の意義だったと感じています。

第四分科会

第四分科会を終えて

第四分科会実行委員長

松浦 誠

私たち吉野川市PTA連合会は、今回の日本PTA全国研究大会徳島うずしお大会第四分科

会において、人権教育の領域で担当しました。実は私が分科会の実行委員長を委嘱された時に勝手ながら分科会の領域は人権教育と心に決めていました。というのも、吉野川市は二〇一二年三月に「人権施策推進計画」を策定し、翌年三月に「吉野川市人権の花咲くまちづくり条例」を制定しました。それを指針として、市民と行政が協働し、人権が尊重される真に民主的な社会を築くために、二〇一四年四月に吉野川市を「人権尊重のまち」として宣言しました。また、私が幼稚園、小学校とPTA役員をしていた西麻植という地域はとりわけ同和教育に関して熱心に取り組む地域だったので、豊富な材料と中味の濃い充実した分科会ができるのではと考えたのです。また、吉野川市PTA連合会の会員の方々の取り組みも非常に積極的で、約三年間に渡る準備期間においてほとんど苦労がなかったように思います。

さて、当日の分科会についてですが、少し不安だった問題が一つありました。一つは分科会の参加人数でした。徳島市内から少し離れた立地条件や交通の便などが影響したのか、事前の調査では六百名収容の鴨島公民館に三百名足らずの希望者しかなく、分科会準備において順調に進んでいた中で大きな壁に直面した思いでした。しかし、開催直前まで実行委員や関係者各位の働きかけのおかげで、当日は四百名を超える人に入っていたことは胸を撫で下ろした次第でした。



いよいよ、分科会が始まりアトラクションの三番目、開会行事を終え、基調講演福永宅司さんのひとり芝居「きみをいじめから守る」、いじめに関する劇をひとり演じきるという講演でしたが、一気に会場の人たちを引き付ける内容でした。いじめという重大な問題ですが、会場の人たちをリラックスさせるのに、少し冗談や笑いも取り入れながら、しかし、演技自体は鬼気迫る本場に迫真の演技でした。その後、実践発表では川島小学校PTAが、吉野川市が平成の大合併で誕生してからずっと取組んできた吉野川市PTA連合会における人権のつどいについての発表を、そして、西麻植幼少PTAが単位PTAの中で活動を発表しました。特に西麻植幼小の「つばくろの家」の寸劇をまじえた発表というのには、他にはない印象的な発表ではなかったかと思



第五分科会

第五分科会を終えて

第五分科会実行委員長
北村 慎章

協議会から日高政治前理事をむかえ、本当に白熱した議論をしていた。七十分という時間が短すぎたことが唯一分科会の中での心残りでした。閉会行事を終えお見送りで会場入口で立っていますと、帰られるみなさんの笑顔や「分科会よかったよ」というお言葉をいただきました。本当にうれしく思います。

最後に、約三年前から第四分科会の実行委員長をさせていただき、今思うのは感謝という言葉につきます。みなさんご存知のとおり、この徳島うずしお大会開催には紆余曲折ありましたが、その中で、第四分科会吉野川市PTA連合会は一貫して分科会を開催することにお力なかつた。そのことに私は誇りに思いますし、支えてくださった分科会の実行委員、吉野川市PTA連合会の会員の方に感謝の気持ちでいっぱいです。また、今回の経験の中で一番感じたことは「なぜばる」ということです。これだけ、厳しい船出でスタートした徳島うずしお大会であっても成功することができたのですから、徳島県のPTA連合会がまた、一つになることをPTAのOBとして切に願うところです。

第五分科会は、勝浦郡・那賀郡・海部郡の三郡合同での開催で行われました。

三郡合同となると広範囲にわたるため、連絡調整・打合せ会場、また、他市の阿南市文化会館会場ということで、様々な面でうまくいくのか、初めてのため全く未知の世界でした。

平成二十六年三月三日、うずしお大会実行委員会設立総会が開催されスタートしました。第五分科会も打合せを重ね、組織図の原案作成、実行委員長・副委員長の決定、各部担当は各郡町別に割り当て等、進めていきました。

途中、紆余曲折ありましたが、平成二十七年春、県P連執行部も新体制となり再スタートを切りました。その中で県P連副会長及び全体会の実行副委員長の依頼を受け、また、輪番制で海部郡P連の会長と、大きな役割を兼ねて担うこととなりました。

それから新たに全体会組織を立ち上げ、関係諸機関への説明と協力要請、各郡市への説明、動員の協力の依頼等たくさんの方々から協力をいただきましたながら



進めていきました。当初は第八分科会でしたが、新たに第五分科会として立ち上がりました。我が子も昨年度末で卒業することとなり、PTAの役員を退任することとなりましたが、うずしお大会は引き続き受けていくこととなりました。

札幌大会の視察を八月に行い、分科会及び全体会のPRをこなしてきましたが、これは徳島うずしお大会を成功させなければ大変だというプレッシャーを大いに受けて帰ってきました。今後、急ピッチで分科会の準備を進めて行かなくてはなりません。スタッフも若干の変更はありませんでしたが、準備を進めていただきました。進めていく中で、数多くの変更等がありいろいろご苦労、ご不便をおかけしました。

また、いくつかの制約があり、各郡事務局でも相当苦労されたと思います。その中でもたくさんの方の知恵をお借りしながら取り組んでいたと感じています。

次々と第五分科会の会合、会場の下見、基調講演の横石氏やパネラーの皆さんとの打合せ等急ピッチで進んでいきました。

うずしお大会が近づいてきた七・八月、全体会との兼務で自分自身が不安でしたが、スタッフの皆さんが非常に協力的な方ばかりだったので分科会の準備は無事に進んでいたようです。

ただ、実行副委員長のお二人、各郡事務局、各部長等には本当にご負担をおかけしました。

大会当日の天候が大変心配でしたが、とてもよい天気恵まれました。早朝より控え室では

パネルディスカッションのメンバーで当日参加の文科省の渡辺氏を新たに加え、横石氏を中心に入念な打合せが行われていました。

たくさんのご来賓を招いての開会式を皮切りに、総合同会者の流暢な進行により分科会がどんどん進んでいきます。



はじくり話が聞けると思っていましたが、来賓の見送りやあちこち走り回っており、ステージを見ることは十分できませんでした。

分科会終了後、会場を後にする方々を玄関で見送った後、最後に第五分科会スタッフミーティングを行い解散しました。静まりかえった夢ホール玄関で、一気に走り抜けたような脱力感でいっぱいでした。

この一年少しの短い準備期間でここまでできたのも都を越えた協働精神や素晴らしいスタッフの方々のお陰と痛感しています。

また、三郡及び阿南市PTAの皆様のご協力に感謝いたします。全国PTA大会を通してたくさんの方々と知り合いになることができ、とても貴重な体験ができました。本当にありがとうございました。

特別第一分科会

感謝

特別第一分科会実行委員長
小西 努

特別第一分科会では、コミュニケーション力の不足とメディアの多様化について研究討議を進めていきました。

まず先陣を切って基調講演で水野真紀氏が登壇しました。冒頭に仕事上での様々なコミュニケーションを話していただきました。ひとつのTV番組を制作するにあたって、より良い番組作りをするために全員でコミュニケーションとりながら全力で取り組んでいく。その際、一番大事なものは笑顔だとおっしゃっていました。渋い顔してる人より、笑顔の人の方が会話がしやすいそうです。当然ですよ。

読書のすすめもありました。語彙力が身に付くそうです。女優は、問われたら表現せねばならない。これを助けてくれるのが読書とおっしゃっていました。このようにコミュニケーション力は、日々の生活で必要であり、磨いていかねばならないのです。で締めました。

次に、水野真紀氏と計盛有希江氏とで対談形式で講演を進めていきました。この中で、「PTA活動はしたことありますか？」の問いには、水野さん



は「しました。」と。しようと思った理由は？「可能な限り何にでも挑戦してみる。何とかなる！より、何とかする！」素晴らしいお考えです。また「ろうそくは愛の象徴。自分自身を燃やして周りに光を灯す。愛も同じ。自分を燃やして周りに注ぐ。それには自分自身を磨かないと愛は注げない」良いですね。

実践発表では、鳴門市撫養小学校PTA会長 平松芳健氏が熱弁しました。特筆すべきは、「撫養クラブ子ども教室」を創設しているところです。平日のみならず休日活動して子どもたちの居場所作りを作り、そこでは三代交流の場を設けて地域ぐるみで子どもたちの輝ける未来を切り拓くため今日も元気に活動しております。

パネルディスカッションでは、コディネーター 阪根健二氏が四名のパネリスト、安田修氏、池内誠氏、石田淳一氏、加藤寿一氏が各氏の視点からのお話を上手く引き出してくださいました。

安田修氏は行政視観点から、コミュニケーション力については、「学習指導要綱でも力を入れている項目。主体的学習を謳い、世界に通用する生きる力を目指しております」と語れば、池内誠氏は保護者側視点から、「スマホを子どもと一緒に楽しむのもコミュニケーション力を培う一つの方法だ！」と力説されました。

石田淳一氏は専門家の視点から、「インターネットは善か悪か？というテーマで全国無償で出前事業してます。ズバリ！

使用の方次第で善にも悪にもなる「彼

の話は一聴の価値があります。

加藤氏は日本PTA側視点



から。「日Pは、スマホを持たせない、から持たせる。へ大転換。親子共々、正しい使い方を学びスマホと共存していく」と高らかに宣言していました。

アトラクションは第九の合唱、ヒップホップダンスを披露して元気を会場中にもたらしてくださいました。おもてなしの心としてお土産売場、館外での軽食&スイーツ出店等致しました。

最後にこの大会に携わってくださった皆様、皆様の中の一入でも欠けたらこの大会の無事成功は無かったでしょう。全て終わった時、涙ちよよぎれました。感動しました。ジョーン！とききました。みんな、ほんまにありがとー！このひと言しか出てこねえっ！！

特別第二分科会

特別第二分科会を終えて

特別第二分科会実行委員長

林 隆

特別第二分科会は、あわぎんホールにて行われ、県内外から六百名の方が参加しました。地域防災を支えるひとつの震災から学ぶ家庭・学校・地域のパートナーシップ」を研究課

題として、基調講演ならびにパネルディスカッションが行われました。

基調講演は、岩手県教育委員会の箱山智美氏にお願いいただきました。箱山氏は、五年前の東日本大震災を経験されました。

当日は、それを教訓として岩手県の大槌町と山田町での震災当時のことについて、避難所での生活について、震災後の取り組みについて話をいただきました。また、子どもさんが三人いると言う事で、保護者として、行政として、地域の一人としての三つの立場から、お話をしてくださいました。

まず、大槌町と山田町は、ともに海によって栄え、津波に何度かあるという、海とともに生きてきた町であることから、箱山氏が幼少の頃より何度も言われてきたことを教えてくださいました。「まずは逃げる」「枕元に洋服をたたんでおく(寒さ対策)」「玄関の靴は必ず揃えておく(夜に津波がきても逃げられる様に)」「寝る前には火は消す(火事防止)」「一度津波が引いても親を探しに行かない」「必ず見つけるので逃げた先で待つ(津波は時間おいて何回もやってくる)」「家はまた建てれば良い・お金もまた貯めれば良い・しかし失われた家族だけは戻す事が出来ない」等々

次に震災ではご家族は、別々の場所被災したのですが、そのことを書いたご長男の作文の一部を紹介してくださいました。また津波に遭った昼間の町の写真と、夜に同じ場所で火事が起こっていた写真等もスライドで

紹介してくださいました。

東日本大震災での避難の教訓・被害を大きくした要因について話される中では、それから得たことをどう自分に置き換えるか、活かしていくかを述べられました。

最後に、「この経験を子どもたちはいつ・どこで・どのように学ぶべきなのか」「子どもたちを守る為に学校・地域・保護者がどう連携をすべきなのか」という課題に、学校や子どもたちを中心に、地域・保護者が協働して動き出している震災後の取組を紹介してくださいました。



箱山氏と文部科学省の吉谷正氏をコーディネーターとして、また、パネラーに慶応大学准教授の大木聖子氏、NPO政策研究所専務理事の相川康子氏、ダツシユ隊徳島代表の川島淳氏、徳島県防災人材育成センター所長の野々瀬由佳氏をそれぞれお迎えし、討議が行われました。

『防災・減災の観点からどのような備えを進めていくべきか』、『人権が大切にされる避難所生活に備えるためにどのような教育が必要か』、『どのように地域全体で、防災について「子どもも大人も学び合う」場を築くか』という三点を討議の視点として話合われました。

視点一を討議して、「備え方を知っていても行動を起こさ



なければ、何も知らないのとな変わりが無いと言のうのが防災である」このことから、「揺れが起きたらどう動くべきなのか」「大きな揺れの後は、どうするのか」「避難所がどういふもので、どういうことが行われていくべきなのか」「被災をどう語り継ぐことやこれらのことをどう実現出来るかが大事であること」等について話合われました。

視点二では、「震災から三日経てば食料が届くので、三日待て」「組織がうまくまとまり避難者から要望が届くのも三日目である」という三という数字に注目し、どう移り変わっていくかということ東日本大震災の様々なデータを用いてコミュニケーションしたことや避難所の組織がどう係わるかについてのコミュニケーション等について発表がありました。

視点三では、「災害が怖くて大変なのは、その通りであるが、地域とそのつながり、その良さを大事にしていかなければならぬ」「山・川・海それぞれの環境の中で、自分達どう生きていくかを子ども達とよく話し合い取り込んでいき、学校・地域・PTAでも話合っていく事が、防災・減災に直結して行くのではないか」との話がありました。大会後のアンケートでも「地元を持ち帰り、子どもと話し合

ます」とか「地域での連携を見直したい」、「防災参観日を取り入れた・充実させたい」との意見が書かれており、大変充実した分科会であったと思います。質問時間がなかったことが残念とも書かれていたのが、悔やまれます。

全体会

徳島うずしお大会が終わって

徳島うずしお大会副実行委員長

新居 友和

徳島うずしお大会にご協力及びご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました。

分科会及び全体会では、有意義な講演やパネルディスカッションが開けたかと思えます。このように徳島でPTAの全国大会が開催され、数多くのPTAに参加して頂き、PTAとして勉強になったのではないのでしょうか。また、徳島うずしお大会が開催されるまで、大変な紆余曲折があり、皆様には多大なご心配やご苦労をお掛けしたと思います。

各分科会では、それぞれの実行委員の皆様、また、連日の猛暑に場外を担当された皆様、場内でたくさん参加者を出迎えた皆様も大変ご苦労されたと思います。しかし、大会が終わり各方面から労いや



お褒めの言葉を頂くことがあり皆さんのご苦労が報われたのではないのでしょうか。

私も全体会で、主に警備、誘導、舞台、進行の部門を受け持ち、無事役目を終えることができました。しかし、全体会の運営で活動し出したのが、半年前とすごく切羽詰まった時期だったと思います。

それでも、各部門をお手伝い頂いた各都市から集まって頂いた皆様のご協力により、滞りなく運営できたと思っております。



全体会の当日は、舞台進行の責任者でしたので、運営全般を見て回る事が出来ませんでした。が、舞台上から観る範囲では皆さんしっかりと動いて頂き、安心して舞台進行に専念できました。今回の徳島うずしお大会が成功に終わり、また四年後には四国ブロック研究大会が徳島で開催されることになると思います。が、全国大会を開催した経験を生かしていけるのではないのでしょうか。

また、PTAでこのような大きな研修会があることを知らない方もいますが、これを期に皆さんが研修会に積極的に参加して頂けるように願っております。最後に、繰り返しになりますが、各方面でご協力頂いた皆様には本当に世話になりました。ありがとうございました。

ブロック別PTA活動紹介

～地域の伝統を守り 未来へつなげよう～

家庭・学校・地域の連携

★次号のブロック別PTA紹介は、海部郡P連、三好地区P協です。

南部ブロック 那賀郡PTA連合会

会長 竹内 康浩

那賀郡は、那賀川の上流域に位置する木頭、木沢、上那賀地区と、中流域に位置する相生、驚敷地区からなる自然豊かな地域です。那賀郡PTA連合会は、小学校5校と中学校4校で構成されており、本年度の児童・生徒数は458人です。那賀郡も少子高齢化の流れのなかで、学校の統廃合が進み、児童・生徒数、会員数ともに減少している現状がありますが、子どもたちを大切に、何事にも協力的な地域性に支えられPTA活動は充実しています。

那賀郡PTA連合会では、5月の総会に始まり、年3回の役員会が行われています。総会の後には懇親会がもたれ、郡内各単P間の親交を深めるとともに情報交換の場となっています。また、毎年恒例の球技大会でも、会員同士の親睦が図られています。

8月30日(火)第62回青少年非行防止並びに少年の主張、阿南・那賀中学校生徒弁論大会に審査員として参加させていただきました。阿南、那賀の各中学校から代表15名が参加し非行防止、友情、地域とのつながりなどをテーマに中学生らしく語りかけてくれました。原稿を読むのではなく、感情を込めて、



弁論大会の受賞者

堂々と聴衆に訴える中学生弁士ばかりで、その熱意と迫力に圧倒されました。最優秀に選ばれた生徒は「僕と彼が信じること」と題して、学校内での自分と家族内での彼の態度、二人の友情、そして非行に走らない決意を熱く語っていて涙腺が緩むほどの素晴らしい内容でした。

このほか、人権講演会をはじめ、那賀郡保健連合会主催の研修会への参加があります。6月に行われた保健連合会研修会では、郡内小中学校の校長、養護教諭、学校医や学校歯科医など多くの関係者にご参加いただき、意見交換を行いました。



保健連合会(那賀町)

子どもたちの現状や健康課題について話し合ったり、学校医の先生に直接アドバイスをいただいたりして、とても実り多い研修会となりました。

那賀郡の各校は、その多くがへき地指定の小規模校です。どの学校においても、学校行事をはじめとする様々な教育活動や地域活動にPTAの主体的な関わりは不可欠であり、常に、学校、子どもたちとともに歩み続けています。少子化の進む今だからこそ、PTA活動の意義や役割は大きく、今の活動が、町の将来を左右すると言っても過言ではないと思います。そんな思いをみんなで共有し、受け継がれてきた地域コミュニティを最大限生かしながら、未来につながるPTA活動を会員の皆様とともに続けていけたらと思います。

西部ブロック 美馬郡PTA連合会

会長 井口 宗忠

美馬郡PTA連合会は、つるぎ町内の3幼稚園、3小学校、2中学校で構成されており、幼児・児童・生徒数は607名、PTA会員数は593名です。各単位PTAはそれぞれに熱心に活動していますが、毎年、研修会と球技(ソフトバレーボール)大会を開催していますので、それらについてご紹介します。

まず、研修会についてですが、昨年度の研修会は11月1日(日)

に「～給食の野菜を作っている農家さんに会いに行こう～」というテーマで、親子食育教室を開催しました。研修内容は、郡内の給食センターにジャガイモ、たまねぎ等の野菜(食材)を提供している地元の農家さんを訪問し、農地を見学し、野菜作りのご苦労などを伺いました。また、農家さんの庭先で今年の収穫

親子食育教育
(農産物収穫を祝う祭り「お亥の子さん」)

への感謝と来年の豊作を願うお祭り「お亥の子さん」を体験しました。昼食は「つるぎの宿・岩戸」で地元の食材を使った「ふるさと料理バイキング」をいただきました。どの料理もとてもおいしくて参加者には大好評でした。昨年度の研修テーマは「食育」でしたが、地域の伝統文化に触れることができ地域創生についても考えるなど、参加者にとっては充実した研修となりました。

本年度の研修会は、8月30日(火)につるぎ町就業改善センターにチベット出身で大阪在住のバイマーヤンジンさんを招き、国際交流

講演会を開催しました。参加者は、町内中学校の生徒・保護者・教職員・地域の住民の方などでした。ヤンジンさんは、1994年来日後、日本でただ一人のチベット人歌手として、チベットの音楽、文化、習慣などを紹介するため日本各地でコンサート活動や講演会を行い、海外でもアメリカのニューヨークで国連本部コンサート公演を果たすなど活躍されている方です。

ヤンジンさんは、日本とチベットの文化の違い、家族のあり方やご自身が受けたいじめなどについてお話をしてくれましたが、ユーモアあり、涙ありの内容でたくさんの感動をいただき、すばらしい講演会となりました。

国際交流講演会
(講師：バイマーヤンジンさん)

次に球技大会についてご紹介します。昨年度の球技大会は、昨年6月7日(日)に貞光中学校体育館を会場にして、8チームが参加して開催されました。球技大会は各単P相互の親睦が目的ですが、力のこもった熱戦が繰り広げられ、若い選手もベテランの選手も、チームの勝利のために力を合わせて頑張り、ファインプレーあり、笑いあいの楽しい大会となりました。会員の減少に伴い、選手集めに苦労するチームもありましたが、どの単Pも、伝統を守ろうと頑張っていました。本年度の球技大会は11月12日(土)に開催する予定です。

美馬郡PTA連合会は、つるぎ町1町による小さな組織です。近年、幼児・児童・生徒数の減少により、PTA組織も縮小の傾向にありますが、伝統ある美馬郡PTA連合会の活動を盛り立てて行くためにも、各単Pの会員とともに力を結集して、よりよい活動にしていきたいと思っています。